

エース水文学（朝倉書店）

初版第1刷(2006年2月25日)から初版第2刷(2006年12月15日)への変更点
2007/06/09

以下、ページ数は初版第1刷のページ数を示す。

2 ページ 10 行目

すべての歴史を包括する → 一切を体系的に記述する

5 ページ 図 1.5 の微修正

7 ページ 下 11 行目

14 → 14.6

7 ページ 下 2 行目

280 → 300

8 ページ 11 行目

14 → 14.6

8 ページ 13 行目

4,000 → 3,000

8 ページ 13 行目

400 → 550

8 ページ 14 行目

10 → 11

10 ページ 2.4.1

プランクの法則、シュテファン・ボルツマンの法則の式を追加し、記述を多少修正した。

16 ページ 図 2.9 の微修正

16 ページ 2.5.2

記述を多少修正した。

18 ページ 図 2.12 の微修正

21 ページ 3章全般

文章の微修正。

26 ページ 3.4.1

熱力学の第一法則を追加し、文章を修正した。

27 ページ図 3.3, 3.4 の微修正

30 ページ図 3.5 の修正

35 ページ図 3.7 の微修正

39 ページ式(3.2.1)(3.2.3)の修正

41 ページ図 3.10 に付された参考文献番号

7) → 9)

43 ページ 9 行目

約半分 → 1/3 から 1/2

45 ページ下 2 行目

T_s は → T_s および ε は

48 ページ 3 行目の式の 2 つ目の等号の後の式中

\overline{uw} → \overline{uv}

52 ページ 7 行目節タイトル、52 ページ図 4.7、12 行目 15 行目、54 ページ 3 行目、55 ページ 15 行目

蒸発散量 → 水蒸気輸送量

55 ページ下 7 行目

水平風速 → 水平平均風速

56 ページ下 4 行目

蒸発量 → 蒸発散量

59 ページ 6 行目式(4.37)の右辺

$$\frac{C_p}{\gamma \lambda} e \rightarrow \frac{C_p}{\gamma \lambda} \frac{p_0}{p} e$$

59 ページ 7 行目

p は大気圧 $\rightarrow p$ は大気圧, $p_0=1013.25\text{hPa}$

59 ページ 9 行目の式中

$p \rightarrow p_0$

59 ページ 11 行目の式の右辺

$$\gamma \frac{d\bar{T}}{d\bar{e}} \rightarrow \gamma \frac{p_0}{p} \frac{d\bar{T}}{d\bar{e}}$$

59 ページ 11 行目の式の右辺

$$\gamma \frac{T_2 - T_1}{e_2 - e_1} \rightarrow \gamma \frac{p_0}{p} \frac{T_2 - T_1}{e_2 - e_1}$$

65 ページ 図 4.11

一点鎖線が G、破線が H。

65 ページ 図 4.13、4.1.4

点線が G、一点鎖線が λ E、破線が H。

69 ページ 図 5.3 縦軸の単位

cm \rightarrow mm

71 ページ 5.4

記述を修正

76 ページ 図 5.10 の微修正

74 から 79 ページ 5.6

記述を修正し、参考文献を追加した。

88 ページ 図 6.7 の微修正

95 ページ 式(7.1)

$$\frac{\partial Q}{\partial t} \rightarrow \frac{\partial Q}{\partial x}$$

96 ページ 5 行目

rough·ness → roughness

97 ページ 2 行目

・・・に適用すると → ・・・に適用すると，斜面幅を B として $A=Bh$ であり， $R \doteq h$ として
よいため

97 ページ 6 行目

q は流量 → q は単位幅流量

97 ページ 下 2 行目

攪乱は → 水深 h の攪乱は

98 ページ 図 7.4

原点の o (オー) → 0 (ゼロ)

98 ページ 13】 行目

方程式(7.15) → 方程式(7.15)(7.16)

99 ページ 4 行目

伝播速度 → 伝播速度 dx/dt

102 ページ 図 7.6 の微修正

V_S → v_s , V_A → v_A

105 ページ 4 行目

L → L_0

105 ページ 11 行目 式(7.44)

$B(L, y)$ → $B(Ly)$

105 ページ 12 行目 式(7.45)

$w(x, t)$ → $w(y, t)$

105 ページ 13 行目 式(7.46)

$s(x, t)$ → $s(y, t)$

113 ページ 2 行目 左側の式右辺

$$R_s^{k-u} \rightarrow R_s^{l-u}$$

113 ページ 3 行目

ここで \rightarrow ここで接続する同じ位数の河道区分を一つの河道区間として

113 ページ 3 行目

河道区分 \rightarrow 河道区間

113 ページ 4 行目

最下流の河道区分の位数 \rightarrow 最大位数

118 ページ 図 8.7 の微修正。×(乗算)を X (エックス) にする。

$$K \times (I - Q) \rightarrow KX(I - Q)$$

119 ページ 下 7 行目 式(8.14)を以下にする。

$$\frac{\partial Q}{\partial t} + \frac{\partial}{\partial x} \left(\frac{Q^2}{A} \right) + gA \left(\frac{\partial h}{\partial x} - i_0 + I_f \right) = 0$$

122 ページ 8.2.5

記述の微修正と参考文献の追加。

126 ページ 16 行目

汚染物質 \rightarrow 物質

130 ページ 図 9.6, 9.7

図の差し替え。足羽川流域を円山川流域に変更。

134 ページ 9.4

参考文献の追加。

149 ページ 10.2.3, 10.2.4

式の表現形式を変更。 $H(k)$ などを H_k とした。

156 ページ 10.3.3

参考文献を追加。

159 ページ 11 章全般

文章の修正箇所多数。

164 ページ下 7 行目

一般に \rightarrow 実現値 x_i の確からしさは x_i における確率密度関数の値に比例すると考えてよいので、 N 個の独立な事象 x_1, x_2, \dots, x_N が実現する確からしさは式(11.6)で表すことができる。

166 ページ下 3 行目

$s \rightarrow s_{0.99}$

170 ページ 5 行目、14 行目

$\log \rightarrow \ln$

171 ページ 4 行目

$x \rightarrow x_p$

171 ページ 8 行目 式(11.18)の上の式

$1/2 \rightarrow 1/k$

171 ページ下 6 行目 式(11.19)の下の式

$\beta \pi \rightarrow \beta x$

172 ページ 4 行目 式(11.21)

$\rho \rightarrow 1/a$

174 ページ 17 行目 式(11.25)

$s_i^* = g(y_i) = g(F^{-1}(p_i))$

174 ページ 19 行目

・・・である。 \rightarrow ・・・である。また、 G は変量 y を標準変量 s に変換する関数である。

174 ページ 9 行目

criteion \rightarrow criterion

177 ページ 8 行目

$s_T \rightarrow s_p$

178 ページ

式(11.34) $\tilde{\phi}_j \rightarrow \hat{\phi}_j, \tilde{\phi} \rightarrow \hat{\phi}$

式(11.35) $(\hat{\phi}_{(\bullet)} - \hat{\phi}) \rightarrow (\hat{\phi}_{(i)} - \hat{\phi}_{(\bullet)})$

179 ページ

式(11.37) (11.38) $\phi^{*\bullet} \rightarrow \hat{\phi}_B^*$

184 ページ

2 行目の式の最初の等号を削除する。